

あ と が き

編集委員長 南 沢 享

『東京慈恵会医科大学教育・研究年報 第39号(2019年度版)』をお届けいたします。原稿の執筆ならびに業績データの作成にご尽力いただいた皆様に心からお礼申し上げます。

本年報では2019年度における学事関係の動きや各講座・研究施設の教育・研究活動の概要を俯瞰することができます。本年報は本学の教育・研究の現状を学外に向けて発信するとともに、学内での相互理解と協働の機会になることを目指しています。是非とも本年報を大いに活用していただければ幸いです。なお、紙媒体での教育・研究年報は今回の2019年度版が最後になる予定です。電子版の発行によって、より活用しやすい年報を目指してゆきます。本年報への皆様からの忌憚ないご意見をお寄せ頂きますよう、お願い申し上げます。

さて、2019年度を振り返ると、国内では年号が平成から令和へと変わり、新たな時代への期待感が

生まれました。本学においても、念願であった新外来棟が2020年1月にオープンして新しい歴史を築くための第一歩を踏み出しました。そんな最中に新型コロナウイルス感染症という、世界規模の危機が到来しました。この原稿を書いている現在もその危機は持続しており、「New Normal 新たな日常」という言葉に表されるような、生活様式をはじめとする様々な社会活動を改めて見直し、再構築しなくてはいけない状況にあります。大学にとっても診療、教育、研究に及ぼしている影響は非常に大きく、それ故、本年報なども活用して、その影響を記録してゆくことはとても大切なことなのではないか、と改めて感じる次第です。

最後に本年報作成にあたり、膨大な編集作業に従事していただいた学術情報センターの職員各位に感謝申し上げます。

2020年10月21日

編集委員会

相曾好司郎, 大橋十也, 北川正路, 谷口郁夫, 南沢 享, 柳澤裕之, 吉村道博